

総社市立総社小学校

校長 三上 啓子

(公 印 省 略)

1 自己評価

I 評価結果

(別紙参照)

II 分析・改善方策

1 心の教育の充実

① 道徳教育，人権教育，だれもが行きたくなる学校づくりの取組を充実することにより，児童が気持ちのよいあいさつや思いやりのある心を生活の中で実践することができるようにする。

- ・ 毎月，品格教育のテーマに沿って品格教育と道徳教育を関連付けた道徳の授業のポイントや内容項目の扱い，日常生活へのつなぎ方を道徳教育推進部が提案し，児童の実態に合わせた道徳の授業を各クラスで行ったり，道徳の授業公開を参観日等に行ったりすることにより道徳教育の充実に努めることができた

- ・ 6月の「いじめについて考える週間」や11月の「校内人権週間」等を中心に「いじめ0 みんな笑顔の 総小っ子」を合い言葉に人権学習等に取り組むことができた。

- ・ あいさつについての週目標を毎月設定し，繰り返して指導に取り組んだ。計画委員会や生活委員会，6年生によるあいさつ運動の取組など児童による主体的な活動にも取り組み，進んであいさつのできる児童が増えてきた。

- ・ SELとピア・サポートをリンクさせ，SELで身に付けたスキルをピア・サポート活動で実践できるようにし，各学年，年間17時間実施した。異学年（きょうだい学年や縦割り班），同学年，異校種間（幼稚園，保育園，中学校，総社高校）での交流の場を意図的・計画的に設けることにより，思いやりの心を育むことができた。

2 健康・体力づくり

② 健康教育・特別活動を充実することにより，児童が基本的な生活習慣を身に付けるとともに，目標をもって最後まで活動に取り組むことができるようにする。

- ・ 基本的な生活習慣を身に付けることができるよう，昨年度に引き続いて睡眠，近年の課題であるノーメディアの2項目を取り上げた。総社東中学校のテスト週間に合わせて，年5回「メディアチェック週間」を設けた。また，高学年の児童も参加してのPTA教育講演会では「ケータイ安全教室」，地域保健委員会では「睡眠の大切さ」について講演会を開催した。これに加えて保健委員会による紙芝居等も行い児童や保護者の意識を高めることができるようにしたが，十分な成果を上げることができていない。保護者との連携を図るための，更なる啓発等，具体的な対応策を検討していきたい。

- ・ 運動会や学習発表会，児童会活動等全ての教育活動において，児童の実態に応じた目標を持つことができるようにし，活動後は振り返りを行うようにした。児童にクラスや自分の目標に挑戦させ，達成感を得させることができた。

3 確かな学力の向上

③ 協同学習を取り入れたりICT機器を活用したりすることにより，児童が進んで学習に取り組むとともに基礎学力を身に付けることができるようにする。

- ・ ICT機器の活用や協同学習を効果的に取り入れた授業改善により，友達と積極的に関わりながら進んで学習に取り組むことができるようになってきている

・ 全ての教師が研究授業を行い、分かる授業づくりに努めることができた。総社市教育研修所道徳研修会での公開授業や「国語科デジタル教科書活用研修会」での授業公開も行い、総社市全体の研修の場を提供した。

・ 朝学習の時間に「東中ブロックきらめきプリント」等を活用して、基礎学力を、総小チャレンジタイムに表現力や思考力を育成するように努めることができた。総小チャレンジタイムでは、4年生以上で児童の実態をもとに複数で指導に当たるようにした。11月に行った岡山県の確かめテスト等により児童に力がついてきていることが確認できた。

4 開かれた学校づくり

④ 各種の便り、ホームページの更新、学校評価、学校公開により、積極的に情報を発信する。

・ 校長室便り、学校便り、学年便り、学級便り、図書便り、保健便り、学校保健委員会便り等をタイムリーに発行するとともに、ホームページの更新に努め、学校からの積極的な情報発信に努めてきた。また、学校行事や学習活動を積極的に公開し、保護者や地域の方の理解と協力を得るように努めることができた。

⑤ 家庭や地域との連携を深めることにより、児童の安全・安心を確保するとともに、家庭学習や読書の習慣を定着させる。

・ 集団登下校を徹底させ、教員による登下校指導をたすきボランティアの方と協力しながら毎日行い、児童の安全・安心を確保することができた。

・ 読書を習慣づけるため、昨年度までの取組に加え「読書の大切さ」についての学級指導や「アイラブブックウィーク」等の取組を行った。加えて、週末の宿題に読書を加えるなどし読書習慣の定着を図ったが十分とは言えない。更なる方策を考える必要がある。

・ 「家庭学習の手引き」や「学びのやくそく」について学級懇談時に保護者に説明して配布するなどし、保護者との連携が図れるように努めた。1日の家庭学習の時間の目安「学年×10+10」分が達成できていない児童はいるものの、ほとんどの児童が毎日の宿題をきちんとすることができている。

2 学校関係者評価者名

井上 憲司 (有識者)	高北 博文 (PTA会長)
諏訪 英広 (有識者)	加古川 聡 (PTA副会長)
加藤 辰彦 (主任児童委員)	横田 あやか (PTA副会長)
宮本 由里子 (地域住民)	

3 学校関係者評価

1. 心の教育の充実

- ・ 学校支援ボランティアを活用した道徳授業など、今後も推進してほしい。
- ・ 校内参観時など、全学年の児童が元気に挨拶をしてくれるため、こちらも気持ちよくなる。習慣付いた挨拶と感じられる。
- ・ 児童たちが中庭で主体的に行っている挨拶運動の様子を聞き、とても感動した。
- ・ いじめ0の実績は嬉しい限りである。道徳・人権学習の取り組みの成果であろう。とは言え、いじめへ発展する前の児童間トラブルや、児童の問題行動は少なからずあったと思われる。その事例を適切に公開し、保護者との連携や日常生活と道徳教育のつながりを付けることも有効であろう。
- ・ SEL, ピア・サポートは根付いた。児童の心の安定を生み、友達の考えや存在を尊重しながら共に学び学校生活を送る風土が形成されてきたように感じる。

2. 健康・体力づくり

- ・ メディアチェック期間の設定を東中のテスト週間に合わせるなど、家庭が取り組みやすい配慮がされていてありがたい。その週間をきっかけに習慣化できるかは、保護者の側にも責任があると思われる。
- ・ 運動会や発表会の高学年の頑張りには、毎年感心するところだが、今年度は春運動会で児童にとっても半年の間に運動会を2回することとなった。あわただしい準備であったと思うが、特に高学年の児童の頑張りは際立っていた。

3. 確かな学力の向上

- ・ 全体（一斉）授業、協同学習に加え、チャレンジタイムなどを活用した個別指導が充実していることによって、全体として学力が向上している。
- ・ 児童の熱心に学ぶ姿勢に感心した。先生方の工夫や努力の賜物でもある。総小チャレンジタイムの成果などもあって、テストの点数も良好のようである。
- ・ 全ての先生が研究授業をし、個人のスキルアップはもとより、チームプレーによる全体のレベルアップに向けた努力が感じられた。このような熱意については、学力アップだけでなく様々な場面で感じる事ができた。

4. 開かれた学校づくり

- ・ 教職員の熱心で献身的な取り組みに敬意を表するものの、一方では、教職員の心身の健康の保持・増進が心配でもある。そのためにも、教職員がより安心できる職場環境を作り、学校だけで問題・課題に対処するのではなく、内容によっては、保護者・地域等から支援をもらうなど、さらに「開かれた学校」になってほしい。
- ・ 学校ボランティアの方々に積極的に学校に関わってもらうことはとても良いことである。
- ・ 学校の開き方・情報発信の方法の検討とともに、学区に存在する人材の発掘、地域の皆さんや保護者のニーズの収集についてもさらにアンテナを向けてほしい。

5. 設置者等による学校への支援

- ・ 学校の建て替えの決定は、児童のみならず学区の住民にとっても大変よいニュースである。建て替え中の教育環境が、児童にとってなるべく不自由なく過ごせるように工法などの検討をお願いしたい。
- ・ 子ども達が毎日楽しく安心して学校に行けるのは先生方のおかげだと感謝している。先生方の健康の維持・増進、さらには、すべての児童が一人残らず学習に取り組む環境づくりの一環として、教諭、支援員等の人的配置等の支援をお願いしたい。

4 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

本年度の成果と課題をふまえ、学校経営目標をより高いレベルで実現することを目指して、来年度も同様の学校経営目標を設定する。

- 1 心の教育の充実
- 2 健康・体力づくり
- 3 確かな学力の向上
- 4 開かれた学校づくり